

宿直草卷四

目錄

第一 祿こもことりし事

第二 針線一箱いそりし事

第三 ところ狼とらふ事

第四 おぼろこよらつこもれし事

第五 殺生して神罰あつた事

第六 所成くんぐせの志やうとんじ事

第七 七人の子の中も女はひやうにまゐりた事

第八 冷食とぬきむ物事

宿直草 卷四

第九 月影と犬とあつた事

第十 痘とろり紙とけ物とあつた事

第十一 いざりしと班とあつた事

第十二 山部とのびまの紙がとれた事

第十三 憎悪うら女房におそられし事

第十四 魔法とてん山伏事

第十五 ところの人の素ふかふ事

第十六 智あつても高生にあそびた事

第十七 地とらむとんた事

三



第二 多^くなり^てわ^るを^る事^を

まゝいあ大坂乃町をゆりし時田れ何うなん子人
 内ハ東アは居あへむ大坂よりうた女もさく懐り
 うるれそい卦も移りくるおちこちうて忍ん庵
 榎葉堂なれをばけのる寝間中ても伽とそ
 出入とる者ありあつ敷池田向高とふびは脚
 りとつひてあそびもきり糸竹の藝とこめて



ておきさうふあんのていねい振むとあそくらあね
 とくさうつとさうさぞおきさうくと振むげね
 おどろきたる神もるる苗乃山さうてゆくえあ
 もどめおやそそれさうさうにむさあ
 とりつさるげとももそや服乃あさうさ
 月さひさうてさうさうさうさうさうさ
 あさうてはあさひさうさうさ

第又殺生して神罰ある事

あさうさういあはて罰さうさうさうさうさ
 あり法師ありあふあさうさうさうさ
 月さうさうさうさうさうさうさうさ
 二さうさうさうさうさうさうさうさ
 らんとさうさうさうさうさうさうさ
 月さうさうさうさうさうさうさうさ

ちと少くはふありしは毒みそをちと海をこりそ
も何事も肩一つをさるる中こそ而も我のい
ふとあるとかなぐれこれよ作天て見るふ。紅
牙と帯とをくくして治とれどもかなつたふり
ゆらりぬ。夢はハミとありとをみせり。女子ハあま
とも男子なつと。此をさるる後家も大坂
は窄居せり。ほは中こそさる人のさるる。是
を人こそ天照大神乃神のめ給ふ地とを救
生せし得たりとあり。今の仕女おそれさるるこ
や。地は求り知りよ。抱て網とあり。救とれ
賜とおと。山とあり。とあり。とあり。生れ乃江救
生禁乃場はあり。とあり。とあり。神あり。人こそ事
もや。そのと士累乃は猪のとと。賜とれ。とと
り。神と。はあり。や。そのと。乃と。め。は。あ。ひ。て

水乃死と云ふ

第六兩式うぐく殺生とてとす

中こととてめく人あり。その衆とてて禄^{ろく}を
 うれとてめく。て官位めてたかく。カ号^{かごう}あり
 て。ほひは猶^{なほ}とてめく。むて。いもう。ハこそ目
 めす。めどらえさる。げ人面^{じんめん}も。その面^{おもて}うて。威
 厳^{いげん}甫^ふ系^{けい}乃^の人^{じん}なり。うき山^{さん}の藁^{くわう}乃^の禁^{きん}は
 ひう。うきうき。あ^あ履^りより。わ^わ乃^の主^{しゅ}乃^の人^{じん}あり
 ぐ。山^{さん}うき。何^{なん}うか。と求^{もと}め。大^{だい}なる。はり。種^{しゅ}
 種^{しゅ}くる。さる。乃^のみ。うき。と。と。と。人^{じん}あり。て。汚^け
 うき。と。ハみ。うき。うき。うき。うき。大^{だい}なる。物^{もの}
 あり。この。ハみ。うき。うき。て。人^{じん}の。うき。うき。
 うき。さ。て。あ。あり。て。うき。うき。うき。うき。て。ま
 こと。うき。や。是^{これ}も。と。うき。うき。の。うき。人^{じん}と



かと申はこめてさうふてさげおそりさ
 つつとつりたりいば人太尉乃人づきわい調平
 多う勇たされどもさうなそとくを極を
 あさうさうをゆく一はくさうてはあつたを
 つつとつりつりもななくりとの山崎とかなま自ぬ
 神乃あめいさうもあはん

第七十七人の子乃申も女は心ゆくはす
 耳なれつりつりあはあつ人姫をとり家は白
 なあり娘は小使屋さびよりの白女とらびそ
 掃除せよじしとらハものねが書ぞなごたりれ
 くれむだもなとつりさうさうさうて娘長りて
 こころをさしあさうさうさう人一つさうさうふ
 てさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 ま人のさうさうさうさうさうさうさうさうさう

かきみづさうりねあふれ水よさそひり
あさけの樹もあさうであささちさうもじ
もじもあひくねむさそさうひたさう
いひさういひさう人ぞいぬれむいさそ
おろろくさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさう
あさけの樹もあさうであささちさうもじ
もじもあひくねむさそさうひたさう
いひさういひさう人ぞいぬれむいさそ
おろろくさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさう

あさけの樹もあさうであささちさうもじ
もじもあひくねむさそさうひたさう
いひさういひさう人ぞいぬれむいさそ
おろろくさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさう
あさけの樹もあさうであささちさうもじ
もじもあひくねむさそさうひたさう
いひさういひさう人ぞいぬれむいさそ
おろろくさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさう

それどのさうまの控られさうあち―て我
またよと述ゆさそとおとろくらむとありけれ
ど女もさういぢあつひむろひおやささくをり
しありぞ。めハ我おしされそほよはくら
ども人とおがねぬなわ乃きあふ。田舎
つかりまぢくいきあよおとろくされそおど
ろけつか

第十回 魔道とおどろく 山伏の事

そのうゝをむ伯耆のち雪あり乃人の歌人
御外まゝむ人の肉をそほつまつひ終ふちや
らん乃むむむ乃肉をあらけきこのもの誰
ぬをもちんまゝおののけり人のうゝをむらん
なりちしむむむ乃葉入も忍むむ水さし
まゝむむむむ。普衆忍辱又沈むのむむむ

[illegible]

殿前より然て追寄しあふその儀乃ちうち
 人ありていふふふなり我つもの卦とわそ
 といふく。書とてあそやたそあつといふ
 らぬ因ちくどりちりぐなるあきなりと余
 ありともゆめや厚づりるんぬ。つるそれ
 行乃。一とて一とわきまづのちふうと
 と見えひてうらを我よえのよるゆらさう
 まさくくとあつてとゆめくれをいふや
 まねぬ申あう。つてはあふとてあふん
 くとつてを程もうけり。とてとて人のと
 はともあそあ人といふあか。つてあふ
 史かたむあやなくとも戸とひく。つて
 さそあふのあつて。程もあれども。と
 みにほのほのまも。ゆ。とあふのまも。と

二十四

[illegible]



敷うーうーに思ひなれどもあこぎが園なる
 ひよもいとらうさるれ屋でとれに供よそ
 くらり終ふもとけうーにふれをおりひかそ
 らひとあづ山乃ふれぶあけあけうでまよ
 いでんわりのひさうせ乃あーろまへあうりれさ
 ふ事まあひいさうさかひいたまふあひ
 さうにうちくうううえんはけてまうーを
 うさむおひとも今ハまあふ。まうやかふは
 ざうまうーうーあうひいりせ乃まらおもる
 くこそさうーうさうひもけ事と親よひうい
 てつひまふさうもどてつさうりぬさてあひ
 かねむれともうさうさふちうりーうども
 ーまさめこのもあひ乃ちさうりハいそで
 びうりその月うりたなるぬえとありて月

